

7 住宅・土地の所有状況

第7章は、調査票乙及び建物調査票を用いて集計した結果である。(第6章までは、調査票甲、調査票乙及び建物調査票を用いて集計しており、集計の対象範囲等が異なる。)

(1) 住宅、土地の所有

現住居を所有している世帯を所有している世帯は約7割

図23 住宅・土地の所有状況(令和5年)

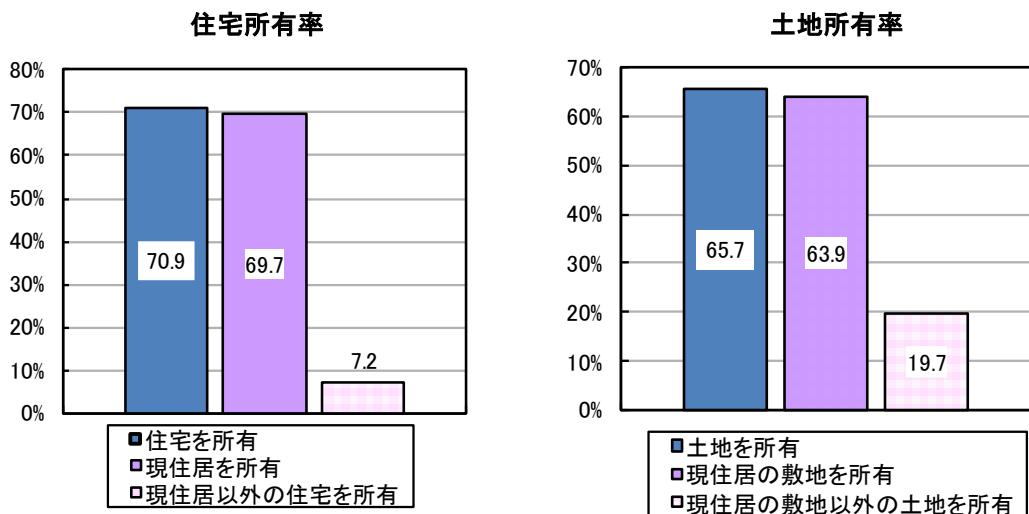
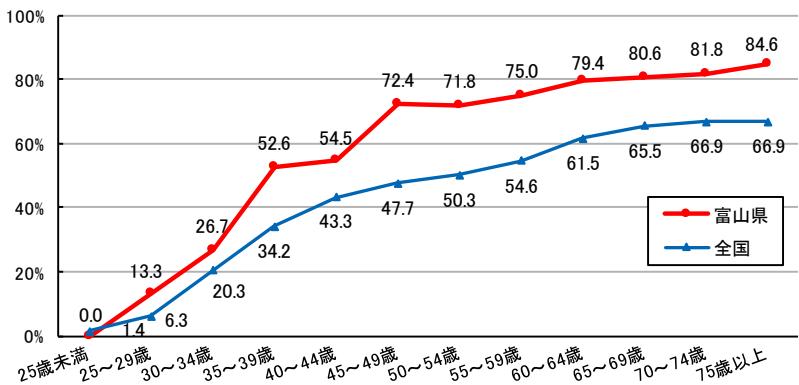


図24 家計を主に支える者の年齢階級別土地を所有している主世帯の割合—富山県、全国(令和5年)



主世帯 402,000 世帯のうち、現住居を所有している(世帯員が登記簿上の名義人となっている)世帯は 280,000 世帯で、主世帯全体に占める割合は 69.7%、現住居以外の住宅を所有している(世帯員が固定資産税を納付している)世帯は 29,000 世帯で、7.2%となっている。住宅を所有している世帯は 285,000 世帯となっており、主世帯全体の 70.9% (全国 57.7%) で、全国 4 位となっている。

主世帯のうち、現住居の敷地を所有している(世帯員が登記簿上の名義人となっている)世帯は 257,000 世帯で、主世帯全体に占める割合は 63.9%、現住居の敷地以外の土地を所有している(世帯員が固定資産税を納付している)世帯は 79,000 世帯で、19.7% となっている。土地を所有している世帯は 264,000 世帯となっており、主世帯全体の 65.7% (全国 48.6%) で、全国 4 位となっている。

土地を所有している世帯について、家計を主に支える者の年齢階級別にみると、年齢階級が高くなるほど所有している世帯の割合が高くなる傾向となっている。

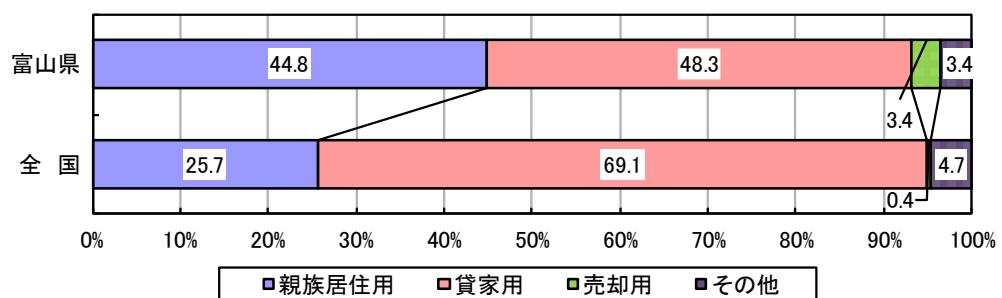
<図23、図24>

(2) 現住居以外に所有する住宅

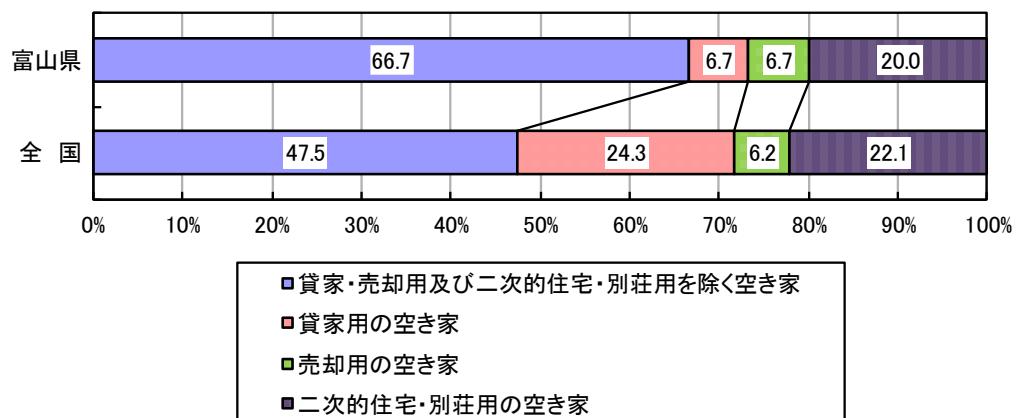
現住居以外に所有する住宅の4分の1は、居住世帯のない住宅（空き家）

主世帯が現住居以外に所有する住宅（「一時現在者のみの住宅」及び「建築中の住宅」を除く）は44,000戸となっている。このうち、居住世帯のある住宅は29,000戸で65.9%（全国77.5%）、居住世帯のない住宅（空き家）は15,000戸で34.1%（全国22.5%）となっている。

図25 主世帯が現住居以外に所有する住宅の主な用途別割合—富山県、全国（令和5年）
居住世帯のある住宅



居住世帯のない住宅（空き家）



現住居以外に所有する住宅の主な用途別の割合をみると、居住世帯のある住宅は「貸家用」が48.3%（全国69.1%）と最も高く、次いで「親族居住用」が44.8%（全国25.7%）などとなっている。また、居住世帯のない住宅は、「貸家・売却用及び二次的住宅・別荘用を除く空き家」（転勤・入院などのため居住世帯が長期にわたって不在の住宅など）が66.7%（全国47.5%）と最も高く、次いで「二次的住宅・別荘用の空き家」が20.0%（全国22.1%）などとなっている。

<図25>